

TOPICS

- 編集長と社長の対談
- エコス通信を振り返る
- ISO9001定期審査
- 2016松江市環境フェスティバル

皆様に感謝

山根社長（写真左）と長野編集長。



松下新編集長と長野。

平成29年1月の誕生日を持って、長野ECO'S通信編集長が定年退職することになり、今回、山根社長と23年を振り返りながら対談をする機会を設けました。

長野編集長が当社へ入社2ヶ月後に、社長より社内報の作成を命じられ、今日まで続いた歴史があります。第1号は“安全ニュース”のタイトル名でスタートし、内容は社内の安全会議の内容、社内での出来事、社長からの言葉で纏められていました。現在はタイトルも“ECO'S通信”と変更し、当社と取引のあるお客様へも広く配信するまでに成長しました。

長野編集長曰く、23年を振り返ると、私なりに「良く続いたなあ」と感慨深げでした。その理由を聞くと、社長からの叱咤激励、編集部員、周りの社員からの協力、お客様からの手紙等が、長野編集長を前に前にと向かわせたのだと感じました。

また、お客様から直接、電話等で励ま

しの言葉をいただくとなおさら、自分を奮い立たせてくれたに違いありません。少しでも良いものを作り、この記事がお客様のお役に立てばと、あれこれと考えた日々であったと思います。

原稿の取材としてお客様を訪問することで、お客様との関係の幅が広がり、また、郷土愛の強いお客様との交流が出来たことも、長野編集長にとっては大きな財産となり、今後の人生においてプラスになっていくと思います。この経験を次の人生として生かすためにも、長野編集長が好きな本、花、風景、社会にも目を向けて、いろんな知識を身に付けていただきたいと思います。

23年間、1つのものを作り続けてきたことは大きな自信になったと思います。23年間ご苦労様でした。そして、ありがとうございます。

今後は松下が、編集を引き継いでいきますが、私なりの感覚でECO'S通信を作り上げて行きたいと考えます。(松下)

23年を振り返って

特に思い出に残ったバックナンバーを取り出してみました。
お客様や社員からの声は何より心に響きました。



山陰興業の「モノを大事にする」社風が生み出した今回の出来事に、うれしい反響をいただき、また新たな感動をいただきました。



お客様からうれしいファックスをいただきました。エコス通信を心待ちにしてくださっているのではないですか。読んでくださる方と発信する側との双方向の「エコス通信」を目指していきたいと思います。



最近、イカルチドリが、構内一般取扱所横の砂利のうえに卵を産み、育てています。自然豊かな智頭のまちで、鳥にも受け入れられたと感じます。これからますます地元密着で、地域のお客様（鳥たちにも）のお役に立ちたいと考えます。



社員への手紙」等で、「周りから、お客様から素晴らしいといわれる社員と会社になる」に共感いただきました。皆様が仕事に誇りを持ち、地域の子供の健やかな成長を見守ることが地域貢献となるのです。

ISO9001定期審査

10月28日、ISO9001:2008年版の定期審査を受けました。定期審査は、マネジメントシステムが継続して要求事項に適合しているかどうかの審査になります。

今回の定期審査の結果は次のとおりです。グッドポイントとして次の1件をあげていただきました。それは、再生重油の開発実験です。再生重油の製造業務で、当社の方針である「環境にやさしく、地域に密着した事業」と整合しており、よりよい改善への取り組みと評価していただきました。改善指摘事項はありませんでした。改善の機会として、次の3点をあげられました。

1. 内部監査

内部監査は、内部品質監査チェックシートを用いて実施しているが、抽象的な表現があるため、監査結果も曖昧になっていること。より具体的な内容をそれぞれのプロセスの重点課題として設定し、有効性の高い内部監査へ改善すること。

2. 運用管理

顧客満足情報は日々の日報で、顧客不満足情報は日報の「トラブル・クレーム」欄に記載されているが、それらのデータの詳細な分析とその有効的な活用の面で改善の余地がある。

3. 製造設備における日常点検

実施する項目については、「点検記録表」に記載されているが、帳票の記載内容の見直しをする改善の余地がある。

来年は、2015年版移行も含めての更新審査を受けることになるため、書類の整理等も含めて、改めて会社全体を見直すことが必要です。そのためには、専従者を置き準備を進めることから始めていく予定です。

問題点はいろいろありますが、一つずつ解決していきたいと考えます。(松下)



みて！ふれて！知って！ 2016松江市環境フェスティバル

11月13日(日) くにびきメッセにて、松江市環境フェスティバルが開催されました。今年で23回目となり、環境に関心が高い市民・NPO・会社関係・行政などが環境問題について楽しみながら学べる場として、約50の団体が出展しました。

当社は今年も、使用済み天ぷら油を使って、キャンドル作りの体験を行いました。

子供たちの真剣な取り組みに感動です。



「簡単にできて、楽しかった。」
「家庭にある材料でできるのがうれしい。」
「天ぷら油がキャンドルに変身して、ビックリ。」
「捨てるものが再利用されて、環境にやさしい。」
「息子が真剣に取り組んでいる姿に感動。」

体験された方々は、リサイクルを楽しみながら、さらに使用済み天ぷら油が燃料になることを理解していただけたと思います。

今後も、地域の資源を地域で有効活用し、地域の方々のリサイクルへの理解をさらに深めていきたいと思っております。

(長野)

人脈と技術を引き継ぐ

周りからお客さまから素晴らしいと言われる人と会社になる

常務取締役 安原幸治

11月25日から東西オイルターミナル広島油槽所で、配管洗浄の仕事で現場に入っています。タンククリーニング工事では毎年のように油槽所に伺っていますが、配管洗浄(ピグ洗浄)は滅多にない仕事です。今回配管洗浄の依頼を頂いたのは、30年以上も前に私たちの先輩社員たちが開拓されたお客さまからの繋がりと、試行錯誤の中で習得された技術が今も残っているからです。

この人脈と技術力が会社で継続されているからこそ30年以上経った今でも仕事を出して頂けるのです。しかし今この仕事のノウハウは福島SMにしか残っていません。

これは油槽所業務に限ったことではありません。収集 - 製造 - 配送 - 販売、処理・KYS、メンテナンス、保全、管理部門全ての業務は先輩方が積み上げてきた基盤の上で成り立っています。このような既存の基礎技術を引き継いで時代の環境

に合った技術やより安全な工法をプラスして、今のお客さまが要求されるものに変えていくことで、既存のお客さまだけでなく新しいお客さまからも依頼が来るようになります。

最近自衛隊や、油槽所などの業務には他の部門から現場に入ってもらっていますが、今の部門お仕事だけでなく、他の部門の仕事でも要請があれば積極的に協力して、仕事の範囲を広げて欲しい。そうすることで会社全体の業務が判り、今までの業務に加えて別の部門の業務も出来るようになることで一人ひとりのレベルが上がり、結果として会社全体の成長に繋がります。

今回の油槽所業務には、既に鎌田GM、藤原拓也社員、大國リーダーに現場に入ってもらっていますが、今後も油槽所に限らず今の業務とは違う業務経験ができるようにして既存技術の継承をしていきます。

私はこう考え、こう実行します

【松下】中電プロジェクトを安全作業で完工させる。

【河上】他部門に協力し、技術の継承も行っていく。

【榎並】他部署の仕事でも自分の仕事として取り組み、仕事の範囲を広げます。

【山口】私は先輩方から学び、技術を引き継ぎます。

【木村天】方向を定める。

【岸本】先輩方が積み上げてきたお客さまとの繋がりを大切に

【高橋】私は既存技術を他の仕事に生かします。

【植尾】一つでも多くの業務を覚え

【吾郷】いろいろなことに積極的に協力

【長谷川】部門を越えて協力し合う。

【小村】KYS作業が誰でもできるような技術継承方法を考える。

【恩村】お客様第一に考え、行動して

【野々村】引き継げるような技術を身に付ける。

【金森】新しい繋がりを作り今後の仕事に役立て

【藤原大】一つ一つの作業をもっと安全、確実にしていきたいと思

【藤原拓】私は、先輩方の技術を勉強

【松浦】自分に出来ることの幅を広げて他部門に協力

【宮北】収集業務の技術をしっかり身に付ける。

【石川】ミスがないように気をつけ特に安全に作業

【松尾】仕事の範囲を広げていけるよう努力

【祝部】引き継いだお客様とのつながりを大切に

【中村】他の部門を応援するときでも、5Sに徹

【足立】私は新しい業務と既存業務を効率良く行

【藤田】効率良く仕事をし、協力できる時間

【加藤】コンプライアンスに重点的に取り組み、「安全で安心、信頼される仕事」を目指

【長野】古き良きものを大切に

「こども論語塾」 を読んで

安岡定子著



私がこの本に興味をもったのは、毎週水曜日に山陰中央新報から発行される学聞にて思想家孔子の論語を知り、もっと読み進んでみたいと思い、この本を選びました。

親子で楽しめるとのことでしたが、見開きでわかり易く年齢関係なく大人も楽しめる本でした。

特に印象に残っているのが、「学びて思わざれば、則ち罔し思いて学ばざれば則ち殆し。」の論語です。現代訳すると「人から学んだだけで、自分から考えてみることをしないと何もはっきりとはわからない。学ぶことと、しっかり考えることはどちらも同じくらい大切。」先輩社員から「何事も考えて行動するように」と日頃から言われているので、改めて言葉の意味が理解できました。

一度だけでなく、何度も反復して読んでいきたい本です。

(松尾)



クサギ(臭木)

ピンクのガクと青い実のコントラストがかわいらしい。葉を摘むといやなにおいがするため臭木の名がつけられました。



改修前



改修後

鳥取営業所敷地入り口の側溝の木製蓋が壊れて、穴が開いてしまいました。

大型車輛や日々の車輛の通過によって、強度が落ちたと思われます。鉄板で蓋を作りました。強度が増し、より安全になりました。

道路からの進入口は特に注意して、安全に通行ができるようにしていきます。(大國)

成功への実践

尾身幸次 著



感謝の生活

不平不満を言わない。
感謝という行為こそ、人生を最も美しく尊くする理想生活の基盤であり、ものの見方・考え方を個人本位の自己主義から超越させて、もっと大所高所から広くものをみるようにすれば自然と感謝の心がわいてくる。
上を見ず下をみて生きるようにすれば、自分が恵まれていることに気付くはずです。

社長が薦める今月の一冊

ECO'S通信283号発刊に寄せて
続けることの大切さ



安全ニュース100号記念永久保存版

振り返ってみると、長野編集長が23年前、「安全ニュース」を発刊し、続いて「ECO'S通信」以来、今回で283号に至りました。

このたび、松下新編集長に引き継がれるにあたり、長野編集長にその長い間の、かつなみなみならぬ努力に、心から有難うを言います。

私がなぜ本誌を発刊することを決めたか、その理由の一つ。それは私の経営の師匠から教えられた教訓を生かして、社員と会社のレベルを上げたいと考えたからです。

その教訓とは、昔寺子屋で子供達に「読み」「書き」「そろばん」を習わせたことが、当時の日本の知的な水準になった。

「そろばん」は計算機に替わったが、「読む」ことと「書く」こと。そして「考える」ことを社会人になっても続ける。続ければ、その人の「知的レベル」、そして「考える」習慣が大きく育っていく。

社員は月に1冊本を読み、考え、感じたことを感想文に仕上げる。その感想文は一部、ECO'S通信に載り、読者の皆さんの目に触れる。これを続けられれば、社員の力は伸びるに違いない。そんな社員教育の一つにしています。

松下新編集長は、心してこの良き伝統をさらに大きく育んでもらいたい。

長野編集長は、この23年間に自らが学んだ教訓を、さらに我がものとし、これからの新しい輝く人生に進んでもらいたい。
(山根)

282号クイズ当選者発表

先月号の答えは、「B.レアド」でした。

抽選の結果、大田市 山田様、鳥取市 村田様が当選です。

おめでとうございます。今月のクイズは都合によりお休みさせていただきます。



蔵書新着状況

・ **ajikuraレシビ** 辰巳出版株式会社

“A級グルメのまち” 島根県邑南町発!

日本経営合理化協会より寄贈

・ **環境ビジネス 特別号** (株)日本ビジネス出版

改正FIT法

逆風は商機

勝ち続ける太陽光事業13の視点

編集後記

エコス通信を283号まで続けられたことは、お客様や山根社長の叱咤激励と社員の皆さんの協力のお陰であり、感謝の気持ちでいっぱいです。皆様にお礼を申し上げます。

論語の中に次のような言葉があります。「性、相近し。習い、相遠し。」意味は、「人は生まれつきというものは、だれも似たりよったりで大きな差はないのだ。生まれた後の習慣や学習の違いによって、その差が大きくなってしまふのだ」です。どんなことでも一所懸命に頑張り続けることが大切で、人は誰でも思いやりの気持ちのある優しい人になったり、何でも頑張れる人になることができる。どんな人になりたいかという理想をもって、体を鍛え、心を磨く努力が必要であると、続けることの大切さを説いています。

これまでの経験が、私のこれからの人生に最大にプラスに働いてくると思います。今後もいろいろなことに果敢に挑戦していきたいと思ひます。

今月号は諸事情により発刊が遅れましたこと、お詫びいたします。
(長野)

下記書籍を購入希望の方は、弊社までお知らせ下さい。在庫数が少ないため、出版局から取り寄せてお届けします。

『成功への実践』 (税込10,584円)

『君に成功を贈る』 (税込1,944円)



発行日：毎月10日

発行：690-0025 島根県松江市八幡町796-20

TEL 0852-37-2470 FAX 0852-37-2472

山陰興業(株) エコス ECO'S通信編集部 長野

E-mail : h.nagano@e-skk.co.jp

印刷：授産センターよつば 印刷係

ホームページ (<http://www.e-skk.co.jp>)



「ナツハゼ」日本のブルーベリーと言われています。

山陰興業蔵書本をお貸しします

本誌で紹介した蔵書本を、広く皆様にお貸しします。

営業マンや当編集部へ遠慮無くお申し付け下さいませ。